— 軟包装の知識について短期習得を目指す —

第42回

フレキシブルパッケージコース

■ 開催日：令和7年12月5日(金) 10:00~17:00

■ 会場：公益社団法人日本包装技術協会 A会議室

■ 主催：公益社団法人日本包装技術協会

受講のお勧め

フレキシブルパッケージは、各種プラスチックフィルム、紙、金属箔などを原材料として製造されるフレキシブルな包装材料である。主な用途が食品、医薬品などであることから、内容物に対する品質保護機能はもちろんのこと、原材料であるプラスチックフィルム等の安全性・衛生性が強く求められる包装材料である。

フレキシブルパッケージの設計を行うには、原材料の「物理的・化学的知識」、「安全性・衛生性に関する知識」あるいは印刷、ラミネーションなどの「製造工程に関する知識」が必要である。また、食品・医薬品メーカーにおける充填包装機、流通条件など内容物が包装され製品となるまでのプロセスの知識も必要とされる。

この講座は、包装関係の企画、開発、製造などに携わる方々を主な対象とし、フレキシブルパッケージに関する基本的な技術・知識を短期間で習得できるようプログラムしました。

また、大幅改正され本年6月に完全施行された「改正食品衛生法」の内容、更には「紙化」、「モノマテリアル化」などフレキシブルパッケージと環境問題との関係などについても分かりやすく解説します。

プログラム

● 12月5日(金) 10:00~17:00

時間帯	講義内容
10:00 ∩ 12:00	1. フレキシブルパッケージ(軟包装)とは ・包装産業におけるフレキシブルパッケージ位置づけ ・フレキシブルパッケージの市場規模 ・JIS(日本産業規格)による定義 ・フレキシブルパッケージ技術開発の歴史
	2. フレキシブルパッケージ用原材料 ・プラスチックフィルム、レジン ・紙、金属箔 ・インキ、接着剤
	3. フレキシブルパッケージの衛生性 ・食品安全基本法 ・食品衛生法 ・ポジティブリスト制度について ・制度に伴う包材製造工場の衛生性について ・海外の衛生法令
— 昼食休憩 —	
13:00 ∩ 14:15	4. フレキシブルパッケージの製造 ・各種印刷工程 ・各種ラミネーション工程 ・後加工工程(製袋、スリット)

時間帯	講義内容
14:15 ∩ 15:30	5. フレキシブルパッケージ設計 ・包装設計を行う上での基本的な考え方 ・内容物品質保持のための包装技術 ・食品を中心とした個別の包装設計事例 ・包装材料の物性評価について
15:45 ∩ 16:45	6. フレキシブルパッケージを取巻く話題 ・機能性パッケージの開発事例 ・レトルト対応、電子レンジ自動開封パウチ等 ・包装分野における最近の社会的な動向 ・フレキシブルパッケージ環境への取り組み ・容器包装のリサイクルについて
∩ 17:00	質疑応答

● 講師紹介

下山田包装技術事務所 所長 下山田 正博 氏(包装管理士)

略歴 1974年 早稲田大学 理工学部応用化学科修士
同年 大日本印刷(株)入社 中央研究所、軟包装製造工場、包装企画開発部門、海外包装部門等に在籍、その後、軟包装衛生協議会 常務理事を経て、2014年より現職
専門：包装材料開発、包装設計